



(別紙3)

教文起第66.9号-1

平成28年7月15日

(施設名) 米子市福市考古資料館
(指定管理者) 一般財団法人米子市文化財団
(代表者) 理事長 杉原 弘一郎 様



米子市長 野坂 康夫

平成27年度「米子市福市考古資料館」指定管理者業務評価書

施設名	米子市福市考古資料館
施設所管課	教育委員会事務局 文化課
指定管理者名	一般財団法人米子市文化財団
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日(5年目)

【モニタリング終了後の総評】

【施設所管課】

協定書及び事業計画書の水準を遵守し、施設の適切な運営・維持管理が実施された。中でも、学校の遠足等にあわせた臨時開館や、出前講座での新たな体験メニューの導入、団体利用者に対する展示解説等の実施は、サービス水準の向上に資するものとして評価できる。自主事業の参加者は前年同時期からの増加がみられる一方、入館者数は減少しているため、今後は来館者数を増やす取り組みにも期待したい。

【第三者評価】

- ・適切である。
- ・学校や公民館向けの利用案内や企画展チラシによる集客努力に加え、遺跡シートの作成など来館者の理解向上の取り組みも評価できる。
- ・妥当である。
- ・適正に処理がなされていることがみてとれる。
- ・努力が認められる
- ・主な実施事業である「埋蔵文化財の適切な保存管理」がなされているかについて総評に加えられていないのは残念である。
- ・館外の出前授業など努力がみられる。
- ・適切。一方、埋蔵文化センターとは名称を分けているが、評価表からはその必然性が受け取れない。
- ・出前講座で教育普及事業に努力しているがこれを通して来館者増につないで欲しい。

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】

施設利用者数は前年度からの減少がみられるものの、出前講座では多くの参加者を記録している。今後も、利用者の一層の増加につながる展示事業やソフト事業が継続的に実施されることに期待したい。

【第三者評価】

- ・HPの書籍紹介について、埋蔵文化センターのHPへリンクが貼られ、そちらを閲覧しないと書籍を知ることができないのは少しもったいない気がする。考古資料館のHP上で紹介し、独自性をアピールすべきではないか。
- ・将来的には西部広域博物館を建設し、その中に統合すべきである。
- ・「米子市史研究員」制度を創設してほしい。

(たとえば、①客員研究員を委嘱し、次の「米子市史」の構想を練る。②米子の歴史の「〇〇時代史」の書ける人材の育成を目的とし、③研究テーマを「原始・古代」に絞り、④資料の収集、整理、歴史叙述の方法の研究を行い⑤テーマを絞った「ブックレット」発行を行う。)

(別紙2)

平成27年度下期「米子市福市考古資料館」モニタリング評価表〔平成28年6月〕

施設名	米子市福市考古資料館	
施設所管課	教育委員会事務局 文化課	
指定管理者名	団体名	一般財団法人 米子市文化財団
	所在地	米子市末広町293番地
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	
選定方法	公募・ 非公募	
施設の設置目的	郷土の歴史に関する市民の知識及び教養の向上に資する。	
主な実施事業	埋蔵文化財の適切な保存管理、整理研究等の調査研究、調査成果の展示や普及活用事業を行う。	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
I 履行の確認 (60点)			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1) 管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	協定書に定められた適切な人員配置がなされており、緊急時の連絡体制、マニュアル等が整えられている。 [資料等確認]
(2) 職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	経営、人権研修等に職員を計画的に派遣し、職員の資質・能力の向上に努めている。 [資料等確認]
(3) 利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	学校や公民館向けの利用案内、企画展チラシ、遺跡シート等の作成・配布を通じて、利用者の拡大を図った。 [資料等確認、立入調査]
2 利用者に関する業務			
(1) 利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1	B	入館者数は前年度同時期よりも減少しているが、古代学習や出前講座等の自主事業では参加者の増加がみられる。

			[資料等確認]
(2) 利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	来館者アンケートの実施や窓口対応を通じて、利用者からの意見・要望の把握に努めている。 [資料等確認]
3 保守点検及び清掃等の業務			
(1) 保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づき、消防用設備等の保守点検が適切に行われている。第三者に行わせる業務は必要最小限である。 [資料等確認]
(2) 清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づき、日常の清掃業務や点検が適切に行われている。 [資料等確認、立入調査]
(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づき、適切な保安・警備業務が行われている。第三者に行わせる業務は必要最小限である。 [資料等確認]
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づいて日常の点検業務が適切に行われ、施設も良好な状態であるため、修繕は行なわれていない。 [資料等確認、立入調査]
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか	B	事業計画書に沿って、常設展や特別展、出前講座や古代体験等の事業を実施した。 [資料等確認、立入調査]
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	情報公開の実施体制、管理体制を整備し、個人情報取扱方針を作成し、個人情報を慎重に取り扱っている。 [資料等確認]
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての	B	施設の在り方を正しく認識

	提案は具体化されているか		しており、事業計画書に具体的な提案がなされている。 [資料等確認]
II サービスの質の評価 (25点)			
1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	事業計画書により、利用者への具体的なサービス向上策が提案されている。 [資料等確認]
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	B	日常清掃業務や安全衛生点検が実施されており、良好な状態で施設利用が行われている。 [資料等確認、立入調査]
3 運營業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか。 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	A	学校の遠足に合わせた臨時開館や来館団体への展示解説の実施といった柔軟な対応をとっている。また、出前講座では新たな体験メニューを実施している。利用者への接客・対応も適切である。 [資料等確認、立入調査]
4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか	B	実施された事業は多岐にわたっており、施設の利用目的にも十分かなうものであった。 [資料等確認、立入調査]
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B	施設設置目的の達成に資するものであった。 [資料等確認]
III サービスの安定性の評価 (15点)			
1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2	B	妥当である。
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3	B	妥当である。
3 団体等の経営状況 (年度ごと)	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4	B	妥当である。

<p>【総評（所管課評価）】</p> <p>協定書及び事業計画書の水準を遵守し、施設の適切な運営・維持管理が実施された。中でも、学校の遠足等にあわせた臨時開館や、出前講座での新たな体験メニューの導入、団体利用者に対する展示解説等の実施は、サービス水準の向上に資するものとして評価できる。自主事業の参加者は前年同時期からの増加がみられる一方、入館者数は減少しているため、今後は来館者数を増やす取り組みにも期待したい。</p>	<p>合計点 (62) 点 / (100) 点 × 100 = (62)</p> <p>平均点 (3.1) 点</p>
---	---

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は、評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

【補足資料】

※1 利用状況

項目	本年度〔平成27年4 ～9月〕 A	前年度〔平成26年4 ～9月〕 B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載
開館日数	296	296	0、100 (%)	
施設利用者数	1,480	1,880	△400、78.7 (%)	遠足等による学校の団体利用が減ったため。
自主事業参加者数	848	770	78、110.2 (%)	
施設稼働率	100	100	0、100 (%)	
事業開催数	6	8	△2、75 (%)	連携事業が減少したため

※2 事業収支

(1) 収入

項目	本年度〔平成27年4 ～9月〕 A	前年度〔平成26年4 ～9月〕 B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載
指定管理料	3,703,000	3,700,000	3,000、100.08 (%)	
自主事業収入	48,500	63,400	△14,900、78.7 (%)	材料費のかからない古代体験が多かったため。
雑入	39,377	52,225	△12,848、75.3 (%)	冊子等売捌収入の減少のため。
合計	3,790,877	3,815,625	△24,748、99.35 (%)	

(2) 支出

項目	本年度〔平成27年4 ～9月〕 A	前年度〔平成26年4 ～9月〕 B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載
人件費	2,474,474	2,416,674	57,800、102.3 (%)	
委託費	183,132	183,132	0、100 (%)	
施設費	668,172	762,641	△94,469、87.6 (%)	
事業費	312,587	236,120	76,467、132.3 (%)	印刷物の増
合計	3,638,365	3,628,439	9,926、100.2 (%)	

※3 経営状況分析指標

項 目	本年度〔平成27年4 ～9月〕 A	前年度〔平成26年4 ～9月〕 B	対 比 A-B、A/B	備 考
① 事業収支	170,000	187,186	△17,186、90.8 (%)	
② 利用料金比率	-	-	-、- (%)	
③ 人件費比率	68.01	66.6	1.14、102.1 (%)	
④外部委託費比率	5.03	5.05	△0.02、99.7 (%)	
⑤利用者当たり管 理コスト	2,458	1,930	528、127.3 (%)	来館者数の減
⑥利用者当たり自 治体負担コスト	2,502	1,968	534、127.1 (%)	来館者数の減

①事業収支：(収入-支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていのかどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況(年度ごと下期に実施し、上期では行いません。)

項 目	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	備 考
①自己資本比率	61.8	63.1	54.9	44.1	57.7	
②流動比率	273.9	288.1	230.7	182.1	304.5	
③固定長期適合率	10.1	11.5	14.2	15.5	15.3	
④総資産経常利益率	1.3	-1.5	-6.4	-1.8	-6.5	
評 価	(以上の指標を参考に評価する。)					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率（\%）} = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多いほど、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率（\%）} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率（\%）} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】 } 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけの経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$\text{総資本経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

■貸借対照表（例）

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	400	買掛金	400
受取手形	500	短期借入金	300
有価証券	200	流動負債合計	700
流動資産合計	1,100	固定負債	
固定資産		社債	300
建物及び構築物	200	退職給付引当金	200
土地	500	固定負債合計	500
投資有価証券	200	負債合計	1,200
固定資産合計	900	【純資産の部】	
		資本金	600
		利益余剰金	200
		純資産合計	800
資産合計	2,000	負債純資産合計	2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

特になし。

6 利用者アンケートの結果

来館者の多くが展示内容が分かりやすく、展示物に興味関心があると回答しており、アンケート結果からも良好な事業を実施していると考えます。